

調査レポート

今月のグラフ(2017年9月)

生産性向上は人口減少社会の切り札か

調査部長 鈴木 明彦

「少子高齢化が進み人口減少時代を迎えた日本経済が成長していくには、生産性の向上が必須だ」とよく言われている。たしかに「 $GDP = \text{人口} \times \text{一人当たりGDP}$ 」であるから、人口が減少する時にGDPを増やしていくには、一人当たりGDPを増やしていかなければならない。言い換えれば生産性の向上が必要というわけだ。

図表1はGDP、人口、一人当たりGDPの関係を見たものである。人口減少が労働力供給の減少という形で経済に影響を与えてくることを考え、人口の変数として生産年齢(15~64歳)人口を用いてみた。

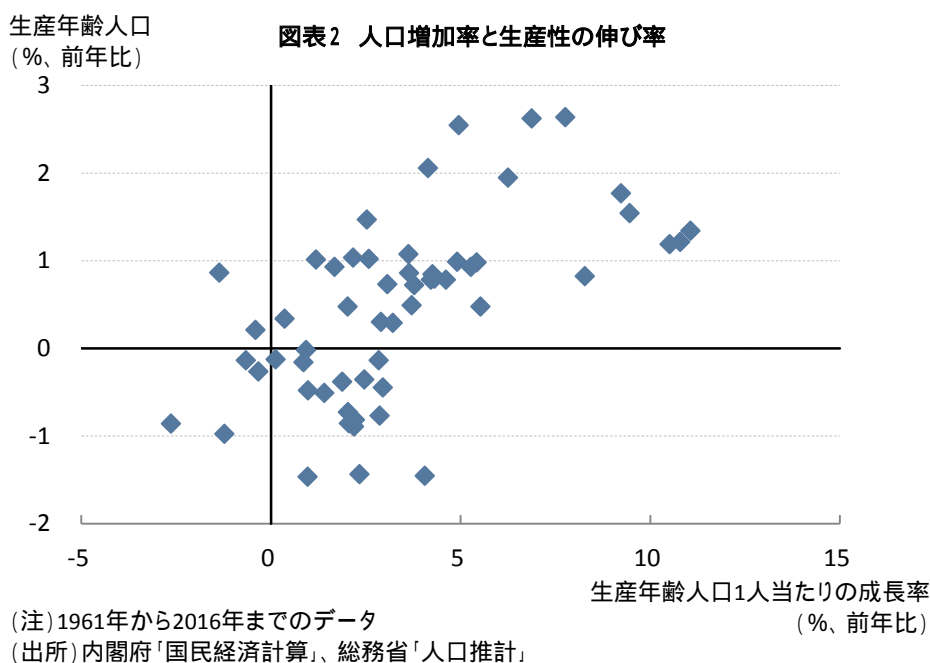
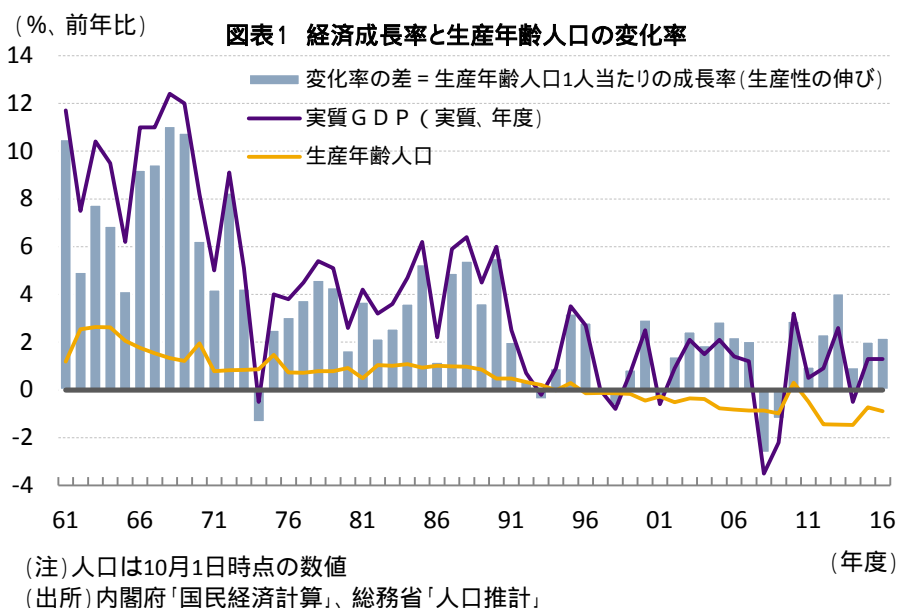
まず、折れ線グラフで示した経済成長率と人口変化率との関係を見ると、高度成長期であった60年代をピークに生産年齢人口の増加率が低下し、それと合わせるように経済成長率も低下している。また、人口が減少するようになると経済成長率もマイナス成長となることが増えており、人口変化率と経済成長率が連動している。

一方、生産年齢人口一人当たりGDP成長率、言ってみれば労働生産性の伸び率は、経済成長率と人口増加率との差で近似され、図中では棒グラフで示している。たしかに、生産性の伸びが高まれば経済成長率が高まり、生産性の伸びが鈍れば経済成長率は低くなるのだが、さらに言うと、経済成長率の変動は生産性の変動でほとんど説明できてしまう。

つまり、人口の変化率が経済成長率と連動しているというのであれば、生産性の変化率とも連動していることになる。図表2は、各年の人口変化率と生産性の変化率をプロットしたもののだが、人口増加率が高いときは生産性の伸びも高く、人口増加率が低下してくると生産性の伸びも低くなる。つまり、世の中でよく言われている冒頭の指摘は理屈の上では正しいのだが、現実の世界では実現するのが容易ではなさそうだ。

生産性の向上は、概念上は供給サイドの問題であり、省力化投資や情報化投資を行うことによって実現することになるが、現実の世界では生産性を向上させるカギは需要の拡大だ。人口が増加している時には、需要も拡大してくるので生産性が向上し、経済成長率も高まってくる。これに対して、人口が増えない、あるいは減少している時は、需要が拡大しないので生産性の向上は難しい。結果として経済成長率も低くなる。そうした現実を無視して投資を拡大して生産性を向上させようとしても、バブルの時のように過剰供給力を抱えるだけだ。

人口が減少する時代に需要を増やしていくには海外の需要を取り込まなければならない。つまり輸出の拡大だ。これを実現するために必要なことは競争力を高めることだ。人口減少時代を迎えた日本経済が成長していくには、生産性よりも競争力の向上が必須だ、ということになる。



- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください。